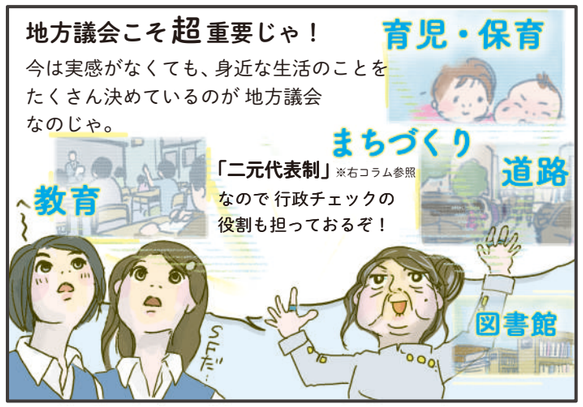
Vote for The Future!

まんが / おばらじゅん



彼女がX年後、練馬区議会議員（無所属）となるのは、また別の話。

地方議会の役割は、監視！

2023年4月は、練馬区議会も含めた、地方統一選挙の年！

自治体は、二元代表制。国政とは、違います。

地方議会＝練馬区議会の役割は、ずばり、練馬区政のチェック！　堅く言えば、監視です。だから本来は、与党も野党もないのですが……。練馬区議会の場合、区長支持の、いわゆる与党が強い現状があります。

日本の制度では、そもそも首長（区長）の権限がとても大きいのです。だからこそ、区長に甘い議員より、より厳しく、しっかりと問題を追及できる議員が必要！

高口のような無所属議員は、都政や国政の影響も受けずに、練馬区のためだけに、純粋に動くことができます。国政ではなかなか無所属では当選しづらいですが、区議会では、無所属が力を発揮できるのも魅力！

練馬区の問題を発信！

練馬区が抱える問題は、本当にたくさんあります。道路、再開発、保育園等の委託や民営化といった積年の課題。そして、美術館など、新たに起こる問題…。どれも、練馬区民の皆さんに、大きく関わっています。会計年度任用職員（非正規公務員）は全国同じ制度ですが、一方、自治体によってルールが違う部分があるなど、練馬区政が何をどうするかが問われます。

問題を伝えるのも議員の役目と思い、高口はブログ、SNS、動画等、精力的にUPしています。ぜひ練馬区の問題を知って頂き、どうすべきかともに考え、ともに変えていきましょう！

一緒に
ねりまの未来を
創りましょう！

＼ まどぐちは、こうぐち！ ／

サポーター登録（無料）のご案内

サポーターにご登録頂きますと、年に一度、高口ようこ・ねりま区政通信『ともに』をお送りさせて頂きます。議員でありフリーライターでもある高口自身による執筆・編集のほか、様々な方のご寄稿も読める通信です。

「手に取って冊子を読みたい」「高口の活動を知りたい」など、どうぞお気軽にご登録ください！

申込方法 お電話、お手紙、メールにて、①お名前 ②ご住所 ③お電話番号 ④メールアドレス を下記 高口ようこ 宛にお知らせください。

高口（こうぐち）ようこ・ねりま区政通信

ともに vol. 2

発行：インクルーシブな練馬をめざす会 高口ようこ
発行日：2022年12月17日

練馬区議会議員 高口（こうぐち）ようこ

〒176-0002 練馬区桜台 3-42-29 荒川方

web koguchiyoko.net

tel 080-7746-8648

mail info@koguchiyoko.net

あなたの力が未来を変える
情報充実、発信中！

LINE 公式アカウント

ともに

高口（こうぐち）ようこ・ねりま区政通信 vol.2

Photo / Takehana Yasushi

練馬区議会レポ

美術館改築、谷原保育園閉園、物価高騰対策

練馬区を象徴する三大問題

opinion

- 子連れで選挙、ダメですか？
- 合理的配慮をアタリマエに

美術館改築、谷原保育園閉園、物価高騰対策

練馬区を象徴する三大問題

練馬区が抱える問題は多々ありますが……
なかでも 2022 年大問題となり、2023 年以降も続くだろう 3 点を、論じます。

練馬区立美術館、改築問題

「コロナによる財政難」を強調する練馬区。一方で…美術館・図書館の改築には、81 億円もかけるといい、大問題に！　資材高騰の今、それ以上かかる可能性も…。

問題は、美術館だけにとどまりません。美術館増築のため、隣のサンライフ練馬を解体→その機能の一部を、中村橋区民センターへ移転→センターからなくなる機能が発生…。玉突きのように、中村橋全体に影響を与えます。当然、反対や疑問の声は強いのに、練馬区はそれを無視し、計画を強行中です。

しかも練馬区はずっと、「改修でも 70 億円」と説明してきました。「改修（＝修繕）で 70 億なら、改築（＝新築）で 81 億円は安い！」と思ってしまいますよね？　でもこれ、大きなミスリード。その 70 億円の中には、「サンライフ練馬の解体＋その部分の増築」の費用が含まれています。つまり、改修（直す）といいつつ、「新築」の費用が大きいのです。

練馬区は 2019 年度、改修の概算費用を出しています。美術館・貫井図書館の改修が 18 億円。新棟（増築）が 38 億円と、倍以上！　「改修で 70 億円」という説明は、誤解を生みますよね？

では、純粋に、サンライフ練馬は含めず、美術館・図書館のみを改修する試算は…？　高口の求めで、ようやく資料が出てきました。その場合は、約 25 億円程度！　資材高騰を勘案しても、70 億円かかるなんて、ありえません。
「改修なら 20 億円台で、はるかに安く済む」
or「改築なら、81 億円で、それ以上かかる可能性も」
この 2 択で、区民に是非を問うべき！　と、高口は考えます。区民が物価高騰に苦しむなか、進めてよいのでしょうか…？

※数字の試算方法は、高口ブログを参照
https://koguchiyoko.net/nerima/20221011iinkai_bijutsukan/

谷原保育園、閉園問題

2021 年夏、谷原保育園の隣地の生産緑地（畑）が売却されることに。生産緑地の買取申し出は、最初に区に出されます。基本的に生産緑地が売りに出されてもほとんど買わない練馬区ですが、この土地は買うことに。そしてそこに新しい民間保育園を誘致。それに合わせて、谷原保育園の廃園を発表しました。保護者に知らせたのは、11 月下旬。なんと、すでに来年度の入園申込を締め切った後…。

当然、大問題となり、保護者は大反対！　谷原保育園を守ろうという陳情の署名活動が集まり、あっという間に何千と積み重なり…2022 年 10 月 13日時点で、11839名。普段は陳情審査をほとんどしない練馬区議会ですが、なぜか、この膨大な賛同者がいる陳情を、審査することになりました。

最初は 5 月。そこでいったんは「継続」＝結論を出さず、持ち越しとなったのですが…10月 13日、二度目の審査が行われることに（P4 参照）。高口はじめ、3 会派が賛成しましたが、反対が上回り、陳情は否決…。区長選の結果次第では、すぐにでも閉園を止められたと思うと、返す返すも、残念ですが…。

なお審査は、隣地の民間保育園の事業者が決定、との報告と合わせて行われました。その点も、これが区立園廃園だけのことではなく、事実上の民営化だということを示しています。今後も同じような手法で、区立園を廃園に追い込むことが危惧されます。

これは谷原保育園に限らず、練馬区の保育すべてに関わる大問題だと考えます。陳情は否決されても、閉園は決定ではありません。今後も子どもたちのための保育、ゆたかな保育環境を守るため、声をあげていきます。ともに頑張りましょう！

物価高騰→生活支援は

毎年決算の時期は、大きな補正予算が組まれます。2022 年 10 月の補正予算は、昨年度同時期より＋109 億円、2.3 倍の「193 億円」と巨額に。

その大きなものが、物価高騰を受けた給付金や補助金です。練馬区独自の生活支援臨時給付金は、15 万円支給…ですが、対象は 700 世帯強とわずか。

学校給食費の補助も決めたものの、食材高騰分のみ（1 食あたり小学校 17 円、中学校 15 円）。給食費無償化については否定しました。

また、高騰する光熱費の支援については、「施設」への臨時給付金という形。介護・障害・教育・子育て分野ですが、産後ケア施設は含まれない等、対象に疑問が残ります。

食材費、光熱費の影響は、区民全体に及んでいます。練馬区として、区民の生活をどう支えていくのかは、喫緊かつ重要な問題。少なくとも、美術館改築のように不急かつ反対も多い事業は一度立ち止まり、まずは区民の生活支援に予算や人員体制を注力すべきと、高口は考えます。

練馬区が誰の、どちらのほうを向くかが、問われます。来年度予算でも、生活支援の充実を求めていきたいと思います！

各会派の議案の賛否

	自民党	公明党	練馬会議	インクル★	共産党	立憲民主	オンブズ	蒼風会	
令和３年度 練馬区一般会計 決算	○	○	○	×	×	○	×	○	認定
令和３年度 練馬区国民健康保険事業会計 決算	○	○	○	×	×	○	○	○	認定
令和３年度 練馬区介護保険会計 決算	○	○	○	×	×	○	○	○	認定
令和３年度 練馬区後期高齢者医療会計 決算	○	○	○	×	×	○	○	○	認定

※公共駐車場会計は全会派一致で可決

★ 高口が所属する会派「インクルーシブな練馬をめざす会」

わたしの本棚

質疑に備え、普段から本もいろいろ読んでいます。最近読んだ中でおすすめは…

農業消滅
農政の失敗が招く国家存亡の危機
鈴木宣弘氏／平凡社新書

ショッキングなタイトルですが…。ウクライナ問題前に書かれた書籍ですが、食糧危機、フードショックが現実の今、真剣に考えるべき問題です。

2021 年度 決算特別委員会
高口が取り組んだテーマ

[総務費][保健福祉費][都市整備費][全款] を担当

困難女性支援法～女性支援のこれから

困難を抱える女性達を保護してきたのが婦人保護施設。根拠法は、1956 年制定の売春防止法です。つまり法の立て付けでは、支援ではなく、女性が悪い＝「更生」が目的。70 年ずっと社会のひずみが弱いところへ向かってきました。新たな女性支援法が長年求められてきたなか、ようやく 2022 年、「困難女性支援法」が制定。大事な大事な、一歩です。

今後練馬区でも、総合的な女性支援が求められます。高口からは、①女性支援を強化する体制づくり、②婦人相談員の待遇改善、③性暴力・性被害からの回復支援、④身近な地域に居場所づくりを、⑤包括的性教育の拡充…と、多角的な対策を求めました。

会計年度任用職員の常勤化推進を

たとえば婦人相談員の会計年度任用職員は、長い方で 18 年も勤続。すでに、「非正規公務員は 1 年任期」という理由自体が、実態と乖離…。会計年度任用職員の常勤化、常勤専門職化を推進すべき！　と訴えました。

中高生の妊娠出産サポートを

2014-2020 年度の統計で、14 歳以下の母親から生まれた子どもの数が、都で 25 人、うち練馬区で 8 人。中高生以下の妊娠出産にはより多様な支援が必要です。相談や保護の体制、居場所づくり、長期的な産後ケア、キャリア支援、費用面の補助等の必要性を指摘しました。

“持続可能”な産後ケアのために…

区のショートステイの現状を分析しつつ、運営費の補助を要求。また、区立産後ケアセンター等長期的な視点での産後ケアのあり方を問いました。

国連勧告～ともに学ぶ教室をめざして

国連の障害者権利委員会が、9 月、「障害児を分離した特別支援教育の中止」等の勧告を、日本政府に出しました。練馬区において、子どもを分ける就学相談の見直しや、合理的配慮の徹底を求めました。

発達性読み書き障害への支援を

発達性ディスレクシアは、クラスに約 3 人とも言われます（P7 参照）。練馬区社会福祉協議会が制作した『発達性読み書き障害早わかりガイド』の活用について質疑。前向きな答弁があり、活用が期待されます！

桜台の防災事業に問題が…

桜台東部地区の木造住宅密集事業。特に道路拡幅にかかる住民から不安や怒りの声を多く頂いています。住民との対話より手続きが優先されている現状、住民への情報提供の偏り、さらに、2021 年度報告書における、消防活動困難区域についての誤りも指摘しました。

Pick up!
高口質疑

谷原保育園存続の陳情に賛成の討論

子どものための保育を！

10月14日、区議会最終日。「谷原保育園の閉園計画の撤回」を求める陳情に賛成の討論をしました。以下、その内容です。

「閉園は、子どものためか？」それが、最大の問題です。

練馬区は、閉園の第一目的を「行政課題」としています。区が並べる理由に、子どもの視点はまったくありません。

延長保育等の保護者サービスと、子どものための保育の質は、厳密に分けるべきです。そして谷原保育園の保護者は、自分たちのためのサービスよりもまず、子どものための保育を求め、園存続を訴えている。それこそが、真のニーズです。

陳情審査の際、「谷原保育園廃園で、子どものためと言えることは何か？」を尋ねましたが、具体的な答弁は皆無。本当に子どものためであれば、閉園などできるはずがありません。

当事者＝子ども達に説明を

また、決算質疑で「子どもに影響はない」と答弁したことも、大問題です。これまでの民間委託でも、登園渋り、不安定になるなど、子どもへの影響が報告されてきました。今回の場合、友達が転園していなくなったり、下の子が入ってこず、お兄さんお姉さんとしての日々の成長の機会を失います。転園すれば場所も変わり、親のように親しんだ先生がいなくなる等、環境が激変します。「子どもに影響はない」という一言でも、「子どもや保育のことがわかっているのか？」と、疑問です。

「影響が出たらどう責任をとるのか？」と聞いても、正面から答えません。区の施策の結果、子どもたちに影響が出ることへの責任についてさえ、答えようとしません。

また「子どもたちに向けて、子どもたちにわかる言葉で説明してほしい」と保護者が求めたところ、区は「子どもへの説明の言葉を持ち合わせていない」と答えました。子どもの権利、子どもの意見表明権を軽視する発言です。

3か月たって高口が、同じ質問をすると、区は「子どもに今回の件を説明する、それがいいのか悪いのか疑問に思っている」と答弁しました。これが、まさに答えです。子どもにとって「悪い」から、説明をためらう。谷原保育園廃園は、子どものためにならない。これが結論です。

泣き寝入りとあきらめ…

しかも練馬区は、保護者がどんなに求めても個別説明会しか開催しません。個別説明会に参加した保護者は、もとは反対ではなかったが、「その場しのぎのことしかいわない」「その場限りのひどい返答が多い」と、そこで不信感を抱いたとのこと。

にもかかわらず、「保護者の理解が進んでいる印象」と、区は決算で答弁しました。在園児の保護者はこう訴えています。

「日々仕事に育児に生活に忙しいママ達。抗うのに疲れ、あきらめ始めている。決して理解や納得ではなく、泣き寝入り。勝手に決めて、反対意見を聞き入れず、泣き寝入りさせて『理解が進んだ』というのは、本当に暴力的です」

56年信頼を培ってきた公立園がなくなることも、地域の保育環境の悪化を招くと考えます。今後練馬区が、同様の形で区立園廃園を進めるのではないかという危惧もあります。

地域のため、保護者のため、何より子どものために、谷原保育園は残すべきと強く訴えます。

質疑、奥深き世界…

はやいもので議員になって5年がたち…。なりたての頃と比べると、知識と経験が積み重なり、質疑の感覚がつかめてきたなあ…と。その時その場の状況で、質疑の仕方は変わるのですが、常に、よい質疑、深くて本質的な質疑を！と追求する日々です。

まだまだという前提で、偉そうに語ってしまうと、今の高口が考える〝いい質疑〟とは…

①当事者の声→これがないと、地に足のついた質疑になりません。当事者の方との出会いで、実現した質疑も多いです。

②当事者の困りごとのなかに、練馬区の制度等の問題点を見つけ、改善策を探る。

③都や国の制度が問題の場合も→広い視野で背景を捉える。

そのために、普段からいろいろな声を聴き、情報を集め、普段の委員会で言えそうな場面がきたら、すかさず挙手。決算や予算、一般質問は時間と場が限られるので、質疑を練りこみます。加えて、私の場合は、自分の中の実感や経験も大切にしています。

質疑自体は論理的に組み立てますが、言葉にできない部分もあり…奥深い世界です…！

根本にあるのは、
変わることない練馬愛！
ちなみにこちらは
「練馬区練馬Tシャツ」

活動レポート
2022年

［ 講座・勉強会 ］

1月22日

区長選ワークショップ

練馬区長選挙に向け、子どもの意見を聴くワークショップを開催。そこで出た質問を、実際に立候補者にぶつけ、回答を子ども達にフィードバックしました。

3月12日

政治 × 哲学対話

政治はなぜ遠い？　なぜリアルでは語りづらい？　哲学対話の手法で、政治を語る新しい試みに挑戦！

3月27日&12月18日

高口ようこ区政報告会

7月31日

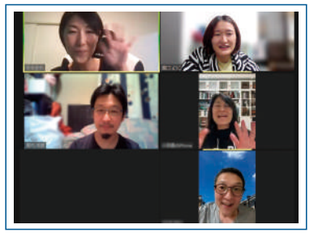
～スウェーデンの小学校に学ぶ～ 主権者教育を考えよう

『スウェーデンの小学校社会科の教科書を読む』の編訳者・鈴木賢志先生。「投票率 85.8%」の教育の秘訣を伺いました。

10月15日

こども当事者研究のはじめかた

書籍『子ども当事者研究 わたしの心の街にはおこるちゃんがいる』に登場する子どもの母、安本志帆さんをお招き。



11月13日

練馬区の会計年度任用職員（非正規公務員）問題を考える

講師は竹信三恵子先生。ジェンダーの観点も含め、官製ワーキングプアの現状を学びました。

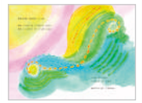
チーム高口で 絵本つくろう企画

政治を身近にしたい…
→絵本で伝えよう！
友人の絵本作家・大川久乃さんとおしゃべりする中で始まった企画。

メンバーと話し合いながら製作し、12月に発表しました。

読み聞かせ動画のyoutube公開やカンパ付きでの販売も予定。

続報をお待ちください。



［ 視察、予算要望等 ］

4月28日 よりよい産後ケアとは…世田谷区立産後ケアセンターを会派で視察。

7月21日 美術館・図書館が一体になった「太田市美術館・図書館」を視察。

7月14日 猛暑と電気代高騰に対応を…！野党会派で、緊急要望書を区に提出。

8月19日 区立美術館のあり方を考えるため、板橋区立美術館を視察。

8月24日 会派他の方々と、「婦人保護施設いずみ寮」を視察。

9月14日 練馬区に要請書を提出「安倍元首相の国葬中止を国に求め 区民に弔意を強制しないよう求めます」

10月29日 議員有志による「区民とともに区政を考える会 意見交換会」でファシリテーターを務める。

子連れで選挙、ダメですか？

たむら まな

私の参議院議員選挙は、初日から子連れで始まった。ポスター掲示番号を決めるくじびきは 8 時半（早い人は、1〜2 時間以上前から並んでいる）。保育園に預けてから向かうと間に合わないため、3 歳の子どもと一緒に新宿・東京都庁へと向かった。

子どもは認可保育園に通っているが、聴覚過敏（周囲の音が大きく不快に聞こえる）などもあり、0 歳の頃から保育園があまり得意ではない。頑張ってどうにか行ける日もあれば、「人が多くて怖い、うるさい」と行けない日もあり、それは選挙中も同様だった。

子どもは 18 日間の選挙期間中、ボランティアさんと事務所で遊んでいることもあれば、たまに街頭挨拶についてきたがることもあった。「ポスター貼りや証紙貼りは OK だけど、挨拶で並んだり一緒に歩くことは公職選挙法でダメ」と都の選挙管理委員会に言われていた。並んでいると思われないように近くのベンチで子どもに待ってもらいながら、道ゆく人へ挨拶した。

ある日、駅での街頭演説に向かう途中、子どもが「あるくのつかれた」と言い始めた。おんぶして駅前へと向かい、いつものようにベンチで待っていてもらおうと思ったが、しがみついて降りてくれない。しょうがなく、そのまま街頭に立った。

投票日翌日、その時の写真が朝日新聞に掲載された。見た人からは賛否も含め、非常に多くの反響があった。地方議員からも、悲痛な声がいくつも届いた。

「子どもが選挙中に病気になり、選挙カーで病院につれていかざるを得なかった。誰かに違反だと通報されるのではとハラハラした」「私も少し離れた場所に子どもを待たせながら挨拶しているけど、車などが多いところでは危ないし本当はしたくない」「『子どもと一緒にいたらすぐ通報してやるからな』と敵対陣営から毎日チェックされて困った」。

また、“子連れ” 以外にも、さまざまなハードルを抱える母親議員が多いことに気づいた。「家事や育児・介護等のケア労働との両立が難しい」「子連れで選挙はダメと言われるけど、立候補準備中では保育園に入園できない。預かり先がない」。

中には「義実家に『自分たちの名字を汚すな』と反対された」「当選したものの議員に反対する夫から DV を受けるようになった」という人や、「子どもをほうっておいて政治家なんて可哀想」「選挙に出たいなら 3 人は産んでからにしたら？」と有権者から声をかけられたという人もいた。

また「子連れは違反じゃないか」という通報の電話が東京都庁に多くあったようで、都の選管は記事が出た 2 日後に「子どもの同行は禁止されていない」という見解を公表した。しかし東京以外の自治体でどういう判断になるかはグレーなままだった。

子育てやケア労働の当事者だからこそ、地域のさまざまな課題に気づくことも多いはずなのに、そういう人たちが選挙に出づらいのはおかしい。そう思って、参院選の翌月に母親の立候補を支援する「こそだて選挙ハック！プロジェクト」を子育て中の仲間達と立ち上げ、10 月には厚生労働省で記者会見を行い、問題提起した。

今は北海道から九州まで 25 名の母親たちがプロジェクトに参加し、来年の統一地方選で、区議や市議・県議・首長を目指して、それぞれが準備を進めている。中には、女性ゼロ議会の自治体で、初の女性候補としてチャレンジする人もいる。生活に 1 番身近である基礎自治体の議員に、同性・同世代の話しやすい政治家がいるということは、とても大切なことだと思う。

何を隠そう私も、2020 年のコロナ禍の中で保育施設が登園自粛となり、仕事が続けられずに困って連絡したのが、高口さんとの最初のやりとりである。その際に親身になってくれたことが記憶に残り、「自分も政治家になって、困っている人の役に立てたらな」と考えたことが、参議院議員選挙へのチャレンジにつながった。

様々なハードルがあるが、連帯して動けば少しずつ変わっていくこともある。厚労省での記者会見から約 1 ヶ月後、11 月 9 日には、「政治倫理の確立及び選挙制度に関する特別委員会」で子連れ選挙に関する答弁が行われ、総務大臣が日本全国での選挙時の子どもの同行を認めた。これによって 2023 年の統一地方選は、赤ちゃんを産んだばかりで保育園に預けられないお母さんや、ひとり親の人も、選挙に出やすくなる。

私の選挙のポスター貼りをお母さんと一緒に手伝ってくれたある不登校の男の子は、「ぼく、将来、政治家になってみようかな」と選挙後にぽつりともらした。子育て中の人も含めた多様な人が政治にチャレンジしやすくなれば、地域の子ども・若者と政治家の接点も増える。それは、次世代を担う人の主権者意識を育てることにも繋がっていくと信じている。

たむら まな　NPO 広報　**Profile**

池袋生まれ、練馬区在住、34 歳。国際基督教大学（ICU）卒業。2011 年より、NPO の広報 PR に従事し、子どもの貧困支援や不登校支援、若者就労支援、ひとり親支援、性被害支援などに尽力。3 歳の子どもを育てながら 2022 参院選に東京選挙区より挑戦し、育児と選挙の問題を広く提起。著書「家出ファミリー」。

合理的配慮をアタリマエに

くぼ あやの

娘が小 2 の 2 学期から学校に行けなくなった時の言葉。

「わたし、充電がなくなっちゃった…」

「頭の中のポケットがパンパンなの…」

「わたしだけスローモーションな気がする…」

その答えのひとつが発達性読み書き障害でした。

発達性読み書き障害とは、知的能力および一般的な理解能力などに特に異常がないにもかかわらず、文字の読み書きに著しい困難を抱える学習障害のひとつです。

娘は、発達性読み書き障害というものの存在を知り、そしてその診断を得たことで、「自分が頑張ってないわけではない」ことが客観的に示されたことに安堵し、漢字テスト前に緊張で眠れないということがなくなりました。小 4 の現在は、週 4 日登校ができるようになっています。

なぜ週 4 日登校なのか？

それは、シンプルに疲れるからです。板書しながら先生の話を聞く、といった合わせ技は、娘にとっては相当のエネルギーを使うようです。しかし、一部のクラスメイトからはズル休みとの言葉もあり、読み書きの困難から派生する新たな課題にも直面しています。

現在、娘も、そして親である私も、この発達性読み書き障害が知られていないことこそが「障害」だと感じています。

文字の読み書きは、「たくさん書けば」「何回も読めば」「頑張って覚えれば」できて当然という風潮の中で、発達性読み書き障害の子は、それができない自分を追い込みがちです。

ひらがな・カタカナ・漢字だけでなく、アルファベットや音符のひとつひとつにも「挑む」ような気持ちで取り組んでいる子どもたちが、実はクラスに 2、3 人いるといわれているのです。

目の悪い人がメガネをかけるのは、アタリマエです。でも、読み書きに困難がある人が、ふりがな付きの教科書で学んだり、答案にひらがなで書いても丸をもらったり、テスト問題を別室で読み上げてもらう等の「合理的配慮」を受けることは、まだまだ「特別扱い」と捉えられてしまうケースが本当に多いです。

さらに担任の先生が代わる度に、説明・交渉に「挑む」ことが、親の大仕事になっている現状。

練馬区在住の当事者の親が立ち上げた「えるでぃ」という親たちが集う会でも、「先生や学校にどのように配慮をいただくか？」は常に出る話題です。合理的配慮は、「受ける」ものではなく、「交渉の上、ありがたくいただくもの」という空気感の中、たくさんの当事者の親たちが闘っています。

日常の学習だけでなく、その先にある受験やアルバイトや就職。障害の説明と交渉に「挑む」壁が、絶えることはなさそうです。

思春期真っ只中の発達性読み書き障害の子は、自分に合理的配慮が必要と分かりながらも、それを拒絶するという話も聞きます。「みんなと違う」ことへの恥ずかしさ・後ろめたさからです。

合理的配慮が「特別扱い」の域を出るためには、学習障害の有無に関わらず全員が「自分の学びやすさ」に合わせて、ノートに書くのか、タブレットで入力するのか、タブレットで黒板の写真を撮るのか、選べるようなユニバーサル支援が必要と感じます。

書かないと学びじゃない、ということはないはずなのですから。

娘が夏休みの自由研究で自身の学習障害について調べて、作文にしました。

「わたしは、勇気をだして自分の学習しょうがいについてかこうとおもいます。その理由は、たくさん練習しても字を書いたり読んだりするのができない人もいることをしってほしいからです。わたしの作文にひらがなが多いのは、漢字を覚えるのがむずかしいからです。（中略）学習しょうがいは目でみえるものではないので、理かいをえることがたいへんです。人はみんな苦手なことがあります。まわりの人に自分が苦手なことを発表するのは勇気がいるけれど、しってもらうことで手だすけしてもらえることもふえると思います。わたしは、だれもが苦手をたすけあえる社会になってほしいです。苦手なことができるようになるために、がんばることはたいせつだけど、目が悪い人がメガネをかけるように、たくさんのサポートをえらべる未来がいいです」

学びとは何か？

読めない・書けない世界を生きるひとたちと「ともに」問い続けていきます。

くぼ あやの　こねくとうぃず副代表　**Profile**

練馬区在住三児の母。アドラー心理学や子育てコーチング、HSP・HSC 理論、発達凸凹学等多角的に学ぶ。地域のママたちに向けて「悩み事を困り事にサイズダウン！」するためのコミュニケーションスキルを伝えている。我が子の発達性読み書き障害発覚後には、えるでぃ（当事者の親たちの集い）にも積極的に参加している。

関連情報

練馬区社会福祉協議会
『発達性読み書き障害 早わかりガイド』